

平成30年度学校評価結果(報告)

※ 達成状況の評価基準は、A:よくできている B:ややできている C:ややできていない D:できていない

| | 分野 | 評価項目・取り組み内容 | 達成状況 | 学校の取り組み状況 | 改善方策 | 学校関係者評価 |
|--------|----|--|------|---|---|--|
| 学習指導 | 1 | ①キャリア発達段階表を活用した系統的な学習内容 ②学校、家庭、社会生活に結びついた体験活動 ③障害の重度・重複化や就労支援への多様な学びの機会 ④地域資源(施設・人材等)を活用した教育の推進 | B | <ul style="list-style-type: none"> キャリア発達段階表の活用については各学部・学年・授業担当に任せているのが現状である。 校外学習や現場実習等について、各活動目標を明確にした計画を立て、実施、反省を行っている。 肢体不自由の児童生徒について、複数の教員が関わることによる共通理解や積極的な支援体制がほぼ確立できている。 今年度は従来のメンテナンス講座だけでなく、検定(物流・品出し部門)における授業についても、現場の視点からアドバイスをいただいた。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業内容とキャリア発達段階表との整合性について検証する仕組みをつくる。 児童生徒の自立につながる体験学習の充実と行事の精選を検討する。 肢体不自由等の障害のある児童生徒に対する教育課程の編成及び教育内容の検討を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な取り組みをしているが、もう少しゆとりがあってもいいのではないか。 企業でも離職についてがテーマである。学校では卒業後何年間を追跡調査をしているのか。 離職の原因として、生活基盤の影響は大きい。卒業後も関係機関が連携して支援していくための、体制づくりが大切である。 |
| | 2 | ①正確な実態把握に基づいた目標設定と指導・支援方法 ②わかりやすい教室環境、教材・教具等の工夫 ③児童生徒が主体的・対話的な深い学習の充実 ④評価基準による評価と児童生徒への振り返り ⑤個別の指導計画の共通理解とPDCAサイクルの見直し | B | <ul style="list-style-type: none"> 発達検査や行動観察をもとに個別の支援計画を作成している。個別の教育支援計画について、年度末に評価と課題を行うとともに次年度の目標を設定し、次年度の担任へと引き継いでいる。 カードや色分けなどで工夫した週予定をボードに貼ったり、日々の予定をシンボルマークで分かりやすくしている。また、今年度より、高等部を中心に、授業等でタブレットを使用する環境が整った。 体験学習や実習における事前・事後学習を丁寧に行うことにより、児童生徒自身の振り返りや自己評価の機会を設けている。 振り返りシートを活用して評価を行い、次の授業につながるよう取り組みを行っている。 個別の指導計画について、年間指導計画作成、授業の振り返り、評価基準の作成、評価内容の確認等を複数の教員で行うことで共通理解をはかる。 | <ul style="list-style-type: none"> 学部間の引き継ぎが正確に行えるよう実態把握の書式の統一及び姫路市のサポートファイルの活用方法についての共通理解が必要である。 タブレットを活用した授業の充実をはかるための情報交換の機会をつくる。 教材・教具の共有を図る。 発表しやすい学習内容の工夫。 年間指導計画との整合性を図り、計画的な学習活動を実施する。また、日々の記録を丁寧にいき、評価の客観性をより高めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間がしっかりと取り入れられていることはありがたい。知的障害の自立活動については難しかったと思うが、自立活動とは何なのか、適応機能とは何なのかをしっかりと押さえていかないとなかなかできない。全国的にもまだまだ知的障害の自立活動についての取り組みは行っていないので、試行錯誤しながら取り組んで発信していったらいい。 教育課程では、キャリア発達段階表との整合性の分析をしっかりと行うことが重要。 障害の重度・重複化といった障害の多様性について意識した取組を今後も取り組んでもらいたい。 改善方策に「児童生徒の自立につながる体験学習の充実と行事の精選を検討する。」とあるが、行事の精選は実際にはなかなか難しいのではないか。 |
| | 3 | ①自立活動の時間での実態把握に基づいた学習集団の編成 ②6区分の優先順位に基づいた指導 | B | <ul style="list-style-type: none"> 発達検査や行動観察による実態把握をもとに、課題別グループ編成を主とした学習形態で取り組んでいる。 発達検査や行動観察による実態把握をもとに、各児童生徒において最も重点的に取組むべき課題を明らかにして取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度の取組みによる成果を引き継ぎ、新たな実態把握を加えて、各児童生徒の優先的に取組む課題が適切かどうかの見直しを行う。 | |
| 児童生徒支援 | 4 | ①学年、学部の移行支援、情報交換の充実 ②個別の教育支援計画における合理的配慮の提供 ③支援会議等による共通理解の推進 | B | <ul style="list-style-type: none"> 毎月の支援部会場で各学部での支援の必要な子どもの情報交換やその情報をつなぐ移行支援について話し合っている。 校内で支援の必要な子どもの相談があった場合、校内支援会議を開いて支援内容について検討し、必要があれば保護者や関係機関にも参加してもらって支援会議を開き、合理的配慮について話し合っている。 必要に応じて随時、支援会議を開いている。支援会議を通して、担当教師と共通理解を図り、改善に努めている。また、関係機関と連携もしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 支援部での話し合いが活発になるように担任だけで課題を抱え込まないで各学年、学部で十分に話し合ってから支援部や支援委員会で学部を超えて検討し、学年、学部全体で課題を共有し、チームで支援にあたる。 校内での支援の在り方についても様々な意見を出し合ってよりよい支援が行えるように支援会議の内容を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒のアンケートをしっかりとってもらっている。子供たちも自分たちが学校のことを評価していく立場としているように考えてもらえるのではないかと期待している。 本校の高等部の教員の個別支援の自己評価が低いのはなぜか。取組の様子から、もっと高い評価でもいいのではないか。 障害や心情の変化、家庭環境・生育歴等に配慮した支援は非常に大切であるが、現実に家庭環境や生育歴等はどのように把握しているのか。 |
| | 5 | ①障害や心情の変化、家庭環境・生育歴等に配慮した支援 ②自ら考え、選択し、行動する力や態度を養う支援 ③社会の決まりやルールへの遵守、様々な規律の習得 ④いじめ等の未然防止及び対応 | B | <ul style="list-style-type: none"> 障害特性の理解、発達検査等で児童生徒の実態を正確に把握し、指導している。 適切な支援によって生徒会行事などに主体的に取り組ませている。 交通ルールを学んで安全に移動したり、社会のマナーを守ることでトラブルのない生活を送ったりできるように指導をしている。 連絡帳を活用して家庭との連携を密にするとともにアンケートを実施していじめ防止、早期発見に努めている。 | <ul style="list-style-type: none"> 職員研修会の実施等専門性の向上。 計画段階から児童生徒が参画する活動、地域ボランティア活動の推進。 校則、交通安全などのルールをわかりやすく示す。 担任と相談しやすい環境づくり。困ったことを相談できる力の育成。 | |
| | 6 | ①生徒が、主体的に選択・決定できる情報提供及び相談体制の充実 ②「働く意欲」や「働く力」を培うキャリア発達の支援の促進 ③現場実習の事前・事後学習による目標設定と振り返り | B | <ul style="list-style-type: none"> 進路セミナーの開催、現場見学会の実施など地域資源を活用した情報の提供 早期からの体験活動や実習の実施による実体験に基づいた意欲・能力の伸長の取り組み 自己理解に基づいた目標、実習先の設定 | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関・地域との情報の共有を進めてチームでの支援体制を確立する。 実習後の事後指導の一層の充実を図る。 自己理解に努めさせ、本人に合った目標設定・進路希望を持たせる。 | |

| | | | | | | | |
|------|----|----------|---|---|--|---|---|
| 教育課題 | 7 | 健康・安全教育 | <p>①健康観察による早期発見・対応や健康教育の充実</p> <p>②授業や学校給食等における食育の充実</p> <p>③安心安全な学校生活、登下校指導、交通安全指導</p> | B | <p>・感染症等への早期発見をするため、朝の健康観察、集計を行っている。またインフルエンザ等の流行時期には、保健室前に欠席状況を掲示し予防を促している。</p> <p>・給食試食会の実施や、アンケートを集計し、食べ物に関心を持ってもらったり、意見を献立に反映したりした。保健室の前に、飲料水の糖分含有量や脂肪や食品カロリーを視覚で分かるよう掲示し、児童生徒や保護者に意識を向けてもらえるようにした。</p> <p>・外部講師を招いて交通安全教育の実施。自力通学において、教師が付き添い下校指導を行っている。AEDの点検を毎日行い、また必要に応じて救急対応訓練、ヒヤリハット報告等を行い、安全に務めている。</p> | <p>・関係機関との連携及び適切な情報発信を今後も続ける。</p> <p>・食育を意識した献立の提供と、児童生徒及び保護者への啓発を行う。</p> <p>・健康・安全に関する研修及び訓練を充実させることで、安全で安心な学校作りの取組を引き続き行う。</p> | <p>・タブレットは見える化のツールとして有効であるので、福祉施設でも最近取り組んでいる。活用をこれからも充実させてほしい。</p> <p>・タブレットのいろいろな使い方をされているようなので、その使い方や授業を見せてもらいたい。</p> <p>・タブレットについては、福祉の中でも使われる場面が多い。B型のような福祉就労の中でも、このような教育がなされていく中で、般化していく取組として捉えざるを得ない状況である。タブレットによる教育効果を学校から福祉サイドへ発信・啓発してもらいたい。</p> <p>・東日本大震災で居住地校交流を行っていた児童生徒は、普段からつながっているため避難所でも安心して過ごすことができた。災害時のことも含めて、小学部からの居住地校交流をぜひ進めてもらいたい。</p> <p>・分教室の生徒は公民館でも挨拶もきちんとできていて、それが就職にもつながっているのではないかと。</p> <p>・タブレットに関して、不要なアプリ等をダウンロードできないように管理されているということで安心した。</p> <p>・インフルエンザによる学年閉鎖が行われたということだが、スクールバスを閉鎖することは考えなくてよかったのか。(今年度はスクールバスによる影響はなかった)</p> <p>・福祉施設に通所している障害のある人が、休日や夜間に災害に遭遇した時に避難する場所は地域の避難所である。子どものころから、地域の避難所に避難すれば助けてもらえるということも含めて、防災教育を進めてもらいたい。</p> |
| | 8 | 防災教育 | <p>①地震等防災避難訓練や防災マニュアル等による学校防災体制の整備・充実</p> | B | <p>警察や消防署の協力をいただき、年4回の避難訓練を実施し、課題等を検討する。</p> | <p>・部内で引継ぎや協議を確実に進行。</p> <p>・事前を打ち合わせを綿密に行う。</p> <p>・南海トラフに備えて訓練を行う。</p> | |
| | 9 | 情報教育 | <p>①視覚支援ツールやICTの効果的な活用と工夫</p> | B | <p>・iPadや新旧PC、プリンター等の情報機器や設備の保守管理を行い、使用にあたってのルール作りやLAN環境の整備等を行った。</p> <p>・大型絵本やデジ図書、希望図書等の管理を行った。</p> | <p>・未整備な部分を含めて情報機器等の環境を保守管理、整備していく。</p> <p>・障害に応じた情報ツールの活用を進めていく。</p> | |
| | 10 | 人権教育 | <p>①交流校や地域、関係機関等への人権啓発の推進</p> <p>②教職員自らの人権感覚の醸成</p> | B | <p>・四郷地区の人権教育特別推進委員会に参加した。啓発映画「あした咲く」の鑑賞をしたり、姫路市教育員会人権教育課の先生の講話を聞いた。</p> <p>・夏季休業中に研修会を実施した。校長先生の紹介により玉木幸則さんに来ていただき、教職員は熱心に耳を傾けていた。人権教育啓発のビデオを見て自分たちで意見を出し合う内容ではなく、外部の講師の方のお話を聞くことができ、とてもよかったという意見がたくさん出た。</p> | <p>・地域での研修を校内の職員に広めて行く取組が必要である。</p> <p>・教職員の人権感覚を醸成するために、研修会の持ち方を工夫する。</p> | |
| | 11 | 交流及び共同学習 | <p>①居住地学校との交流の充実</p> <p>②学校間の交流及び共同学習の充実</p> <p>③地域や部活動等その他の交流の充実</p> | B | <p>・小中学部では保護者の希望により居住地校交流を実施している。事前、事後の打ち合わせを大事にして、お互いの学校の子供たちにとって意義のある交流になるよう個に合わせて計画をし、反省、評価をして、次年度につなげている。</p> <p>・各学部で目的を持って学校間交流を進めている。事前の打ち合わせを綿密に行い、実施、評価を行っている。</p> <p>・校内において学部間交流を実施している。給食交流、自己紹介文、手紙の交換等行い、お互いのクラス情報を得て互いが充実した取り組みを行っている。部活動では、近隣の中学校や支援学校との練習試合を行いながら交流を図っている。</p> | <p>・居住地校交流の希望者が小学部は7割と多いが、中学部は3割と少ない。卒業後居住地で暮らすことを考えると学年があがっても交流していく必要がある。中学部で希望者が少なくなる原因を探り、保護者に理解を促していく。</p> <p>・お互いの学校にとってどのようなメリットがあるか整理し、事前事後の打ち合わせをさらに丁寧に行なっていく。</p> <p>・学部間交流での実施内容を各学部で共有する。また、今年度より評価・課題を実施し、今後の取り組みに生かせる機会を設ける。部活動では、相手校との情報交換が必要である。</p> | |

| | | | | | | | |
|-------|----|-----------|---|---|--|---|---|
| 学校運営等 | 12 | 教職員の専門性 | <ul style="list-style-type: none"> ①教育課題対応や専門性向上に役立つ校内研修の推進 ②外部人材を活用した研究授業等の計画及び推進 ③自己研修の研鑽と研修成果の共有と還元 ④専門性向上のための5つの検討課題への取組の努力 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中を中心に、校内全体研修を実施し、様々な教育課題について研修を深めた。 ・1学期と2学期に兵教大の岡村教授を迎えて、自立活動の研究授業を行い、指導助言を得た。 ・課題別研究グループを作り、年3回程度の研修を行い、自己研鑽に努めた。 ・研修研究部をはじめ、支援部、自立活動部、進路指導部、生徒指導部、保健部が研修を持ち、専門性の向上に努めるとともに、研究において、キャリア教育を見据えた指導の在り方を検討した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に年間の研修、研究についてのアンケートを実施し、達成された点、改善が必要な点を明確にして、改善していった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・マンパワーが大切です。教員の専門性の向上に積極的に取り組んでいることは評価できる。生徒のためにも、指導力の向上に今後も取り組んでもらいたい。 ・保護者の評価に比べて教員の評価が低いようだが、もう少し客観的に評価するようになってもらいたい。(取り組みを見れば、もう少し高い評価でもいいのでは) ・学部間交流や学年間交流の視点は大切である。 ・働き方改革として勤務時間の適性化が進んでいるのはよいことだが、持ち帰りの仕事が増えないように気をつけてもらいたい。 ・隣接する小学校と中学校が小中一貫校になるが、何か影響はあるか。交流が実施しやすくなるのではないか。 ・生徒指導の研修会等で不登校の原因が発達障害であるという事例が増えてきていると聞くと、センター的機能として地域の学校を巡回して、近年、不登校と発達障害との関係についての相談が増えているのか。 ・就労支援の立場で支援するのは、発達障害の人が多い。特別支援学校より、高校からの就職者に対する支援が増えている。 ・教員の指導力向上の研修に関して、人材育成の観点からの教育体系はあるのか。 |
| | 13 | センター的機能 | <ul style="list-style-type: none"> ①早期からの教育相談体制の充実 ②地域や学校園の支援や研修の提供 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・姫路市では、年度当初の幼稚園、保育所(園)担当者会と、保護者説明会に参加して、早期からの支援の大切さや本校での就学前からの教育相談の案内をしている。神崎郡3町は各町の保健師と連携して本校のリーフレット等配布してもらっている。 ・各市町教育委員会と連携して各学校園所への巡回を通しての助言や研修会の提供を行っている。継続支援が必要な場合、本校での相談につながっている場合もある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・姫路市神崎郡とも就学前の療育機関が充実している。待機時間が長い機関もあり、早期に相談できる保健師さん等をキーパーソンとして本校での相談の活用も働きかけていきたい。不登校になってしまったからの相談が多い。各学校に早期に気づき支援ができるよう理解啓発を行っていききたい。相談には支援部全員でかかわっていけるよう校内の理解も促す必要がある。 ・中学校からの依頼が少ない。中学校への理解啓発をどのようにしていくか。 | |
| | 14 | 家庭・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ①保護者への連絡、相談、情報交換等 ②学校HP、学校だより等の情報発信 ③オープンスクール、学校行事等の公開 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時等は管理職を中心に、各家庭にメールを送信している。 ・各学部、各校務部で大きな行事の終了後、随時HPに掲載している。また児童生徒に文書(通信等)を持ち帰らせている。 ・オープンスクール(年4日)、運動会、体育祭、ひめよう祭等は関係各機関、関係者、地域の方々にも案内している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・メールは既読確認ができるようになりました。保護者の皆様にもご協力いただきたいと思います。 ・可能な範囲で、HP等は更新したいと思います。 ・詳細等もできる限り、早く連絡したいと思います。 | |
| | 15 | 校務運営 | <ul style="list-style-type: none"> ①学校教育目標の共通理解と連携・協働して、機動的に対応 ②若手教職員の育成や教職員間の学び合い、相互支援関係 ③勤務時間の適正化とハラスメント防止 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究を通じて、今年度は自立活動を中心に各学部の取組を互いに理解し、学部間の連携を意識した教育活動を行った。 ・課題別研究グループで年3回程度の研修を行い、学部や世代を超えて学び合うことで、若手の育成につながった。 ・定時退勤の定着により、勤務時間の適性化が図られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業発表会のより一層の充実と、情報発信と共有化の推進。 ・課題別研究グループの成果、校外研修等の報告や資料をグループウェア等で共有できるようにする。 ・業務負担の偏重の改善に向けた業務分担の調整。 | |